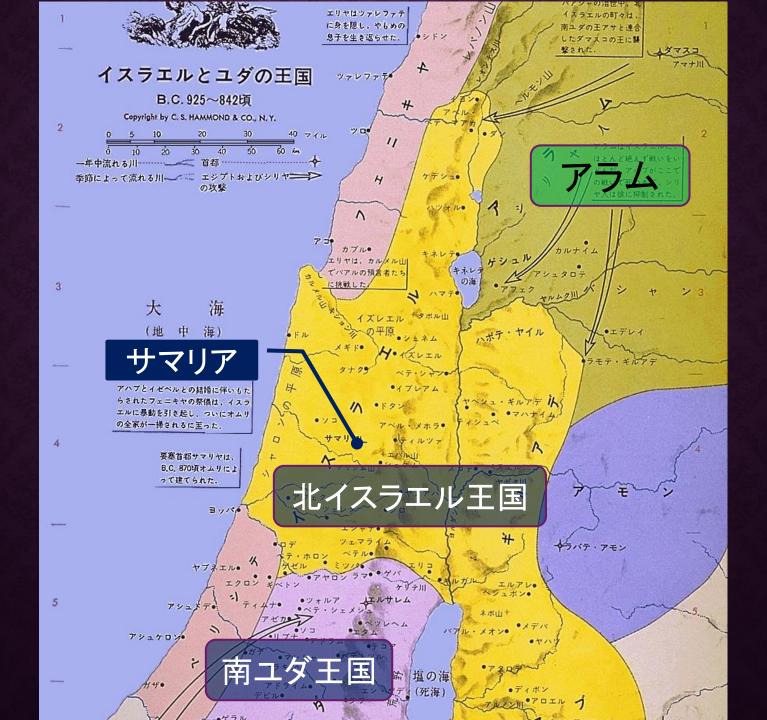
預言者の使命

シリーズ~預言者の声~ 2022/5/22

エリヤからエリシャへ

- 「またアベル・メホラのシャファトの子エリシャにも油を注ぎ、あなたに代わる預言者とせよ。」 く列王記上19:16>
- 「エリシャは、『あなたの霊の二つの分をわたしに 受け継がせてください』と言った。エリヤは言った。 『あなたはむずかしい願いをする。わたしがあなた のもとから取り去られるのをあなたが見れば、願 いはかなえられる。もし見なければ、願いはかな えられない。』彼らが話しながら歩き続けていると、 見よ、火の戦車が火の馬に引かれて現れ、二人 の間を分けた。エリヤは嵐の中を天に上って行っ た。<列王記下2:9-11>

エリヤ		エリシャ
干ばつを預言する	1	ヨルダン川を分ける
粉と油を増やす	2	水を清くする
やもめの息子をよみがえらせる	3	熊によって悪童を成敗する
火を呼び降しバアル預言者を撃破	4	涸れた沢に水が満ち敵を討つ
雨を降らせる	5	粉を増やす
51人の兵士を火を降して焼き尽くす	6	シェネムの女に子どもが与えられる
51人の兵士を火を降して焼き尽くす	7	子どもをよみがえらせる
ヨルダン川を分ける	8	煮物の毒を取り除く
	9	その煮物で大勢の人が満腹になる
	10	アラムの司令官ナアマンを癒す
	11	ゲハジに重い皮膚病が生じる
	12	鉄の斧を浮き上がらせる
	13	アラムの軍勢の目をくらませる
	14	アラム軍の退却を預言する
	15	アラムの王の交代を預言する
	16	アラム軍の撃退を預言する



列王記下5章1~19節

アラムの王の軍司令官ナアマンは、主君に重んじられ、気 に入られていた。主がかつて彼を用いてアラムに勝利を与 えられたからである。この人は勇士であったが、重い皮膚病 を患っていた。アラム人がかつて部隊を編成して出動したと き、彼らはイスラエルの地から一人の少女を捕虜として連れ て来て、ナアマンの妻の召し使いにしていた。少女は女主 人に言った。「御主人様がサマリアの預言者のところにおい でになれば、その重い皮膚病をいやしてもらえるでしょう に。」ナアマンが主君のもとに行き、「イスラエルの地から来 た娘がこのようなことを言っています」と伝えると、アラムの 王は言った。「行くがよい。わたしもイスラエルの王に手紙を 送ろう。」こうしてナアマンは銀十キカル、金六千シェケル、 着替えの服十着を携えて出かけた。

彼はイスラエルの王に手紙を持って行った。そこには、こうし たためられていた。「今、この手紙をお届けするとともに、家 臣ナアマンを送り、あなたに託します。彼の重い皮膚病をい やしてくださいますように。イスラエルの王はこの手紙を読 むと、衣を裂いて言った。「わたしが人を殺したり生かしたり する神だとでも言うのか。この人は皮膚病の男を送りつけて いやせと言う。よく考えてみよ。彼はわたしに言いがかりをつ けようとしているのだ。」神の人エリシャはイスラエルの王が 衣を裂いたことを聞き、王のもとに人を遣わして言った。「な ぜあなたは衣を裂いたりしたのですか。その男をわたしのと ころによこしてください。彼はイスラエルに預言者がいること を知るでしょう。」ナアマンは数頭の馬と共に戦車に乗ってエ リシャの家に来て、その入り口に立った。エリシャは使いの 者をやってこう言わせた。「ヨルダン川に行って七度身を洗い なさい。そうすれば、あなたの体は元に戻り、清くなります。」

ナアマンは怒ってそこを去り、こう言った。「彼が自ら出て来 て、わたしの前に立ち、彼の神、主の名を呼び、患部の上で 手を動かし、皮膚病をいやしてくれるものと思っていた。イス ラエルのどの流れの水よりもダマスコの川アバナやパルパ ルの方が良いではないか。これらの川で洗って清くなれな いというのか。」彼は身を翻して、憤慨しながら去って行った。 しかし、彼の家来たちが近づいて来ていさめた。「わが父よ、 あの預言者が大変なことをあなたに命じたとしても、あなた はそのとおりなさったにちがいありません。あの預言者は、 『身を洗え、そうすれば清くなる』と言っただけではありませ んか。」ナアマンは神の人の言葉どおりに下って行って、ヨ ルダンに七度身を浸した。彼の体は元に戻り、小さい子供 の体のようになり、清くなった。彼は随員全員を連れて神の 人のところに引き返し、その前に来て立った。「イスラエルの ほか、この世界のどこにも神はおられないことが分かりまし た。今この僕からの贈り物をお受け取りください。」

神の人は、「わたしの仕えている主は生きておられる。 わたしは受け取らない」と辞退した。ナアマンは彼に強 いて受け取らせようとしたが、彼は断った。ナアマンは 言った。「それなら、らば二頭に負わせることができる ほどの土をこの僕にください。僕は今後、主以外の他 の神々に焼き尽くす献げ物やその他のいけにえをささ げることはしません。ただし、この事については主が僕 を赦してくださいますように。わたしの主君がリモンの 神殿に行ってひれ伏すとき、わたしは介添えをさせられ ます。そのとき、わたしもリモンの神殿でひれ伏さねば なりません。わたしがリモンの神殿でひれ伏すとき、主 がその事についてこの僕を赦してくださいますように。」 エリシャは彼に、「安心して行きなさい」と言った。

北イスラエル王国 対 アラム

• アラム(王国)について

- 現在のシリアの辺り
- イスラエルの北からメソポタミア付近まで
- ユダヤ人のパレスチナ入植から長い関わり

・北イスラエル王国との戦い

- ・アハブ王の時、アラムが攻め込む(上20章)
- ・南北連合軍でアラムに攻め込む(上22章)
- 司令官ナアマンの重い皮膚病が癒される
- アラムが攻め込み、サマリアを包囲するも、主の助けにより追い払う(下6,7章)
- 南北連合軍がラモト・ギレアドで戦う(8章)

司令官ナアマン

- 重い皮膚病を患った司令官ナアマン
 - •「主がかつて彼を用いてアラムに勝利を与えられた」
 - •「この人は勇士であったが、重い皮膚病を患っていた。」
- ・北イスラエル王国の預言者を頼るナアマン
 - イスラエルから捕虜として連れてこられた妻の召使い
 - サマリヤの預言者(エリシャ)が癒してくれるに違いない
 - ナアマンが王にその事を伝えると、王は(敵国)イスラエルの民の王に手紙を書いた!
 - ナアマンはそれほど大切な司令官だった
 - ナアマンは贈り物(銀十キカル、金六千シェケル、着替えの服十着)を携えて、北イスラエル王国に赴く

エリシャの所へ行くナアマン

- ナアマンの訪問に激怒するイスラエルの王
 - ・衣を裂いて言った。「この人は皮膚病の男を送りつけていやせと言う。よく考えてみよ。彼はわたしに言いがかりをつけようとしているのだ。」
- 自分の所に寄越すよう伝えるエリシャ
 - 「その男をわたしのところによこしてください。彼はイスラエルに預言者がいることを知るでしょう。」
- 使いを送りナアマンに指示を与えるエリシャ
 - 「ヨルダン川に行って七度身を洗いなさい。そう すれば、あなたの体は元に戻り、清くなります。」

癒されたナアマン

- エリシャの「塩対応」に激怒するナアマン
 - •「彼が自ら出て来て、わたしの前に立ち、<u>彼の神、</u> 主の名を呼び、患部の上で手を動かし、皮膚病 をいやしてくれるものと思っていた。」
 - •「彼は身を翻して、憤慨しながら去って行った。」
- 家臣の執り成しに折れてヨルダン川に浸かる
 - 「あの預言者は、『身を洗え、そうすれば清くなる』と言っただけではありませんか。」
- 癒されたナアマン
 - 「ナアマンは神の人の言葉どおりに下って行って、 ヨルダンに七度身を浸した。彼の体は元に戻り、 小さい子供の体のようになり、清くなった。」

主なる神のことを知っている!

気されたナアマン

- ・ Jシャの「塩対応」に激怒するナアマン
 - ・「彼が自ら出て来て、わたしの前に立ち、<u>彼の神、</u> 主の名を呼び、患部の上で手を動かし、皮膚病 をいやしてくれるものと思っていた。」
 - •「彼は身を翻して、憤慨しながら去って行った。」
- 家臣の執り成しに折れてヨルダン川に浸かる
 - 「あの預言者は、『身を洗え、そうすれば清くなる』と言っただけではありませんか。」
- 癒されたナアマン
 - ・「ナアマンは神の人の言葉どおりに下って行って、 ヨルダンに七度身を浸した。彼の体は元に戻り、 小さい子供の体のようになり、清くなった。」

信仰告白をするナアマン

- 主なる神だけが神であると分かった
 - 「イスラエルのほか、この世界のどこにも神はおられないことが分かりました。」
- イスラエルの土を持って帰るナアマン
 - 「それなら、らば二頭に負わせることができるほどの土をこの僕にください。僕は今後、主以外の他の神々に焼き尽くす献げ物やその他のいけにえをささげることはしません。」 <祭壇造り
- 主君と共に異教の神にひれ伏すことを許す
 - 「わたしの主君がリモンの神殿に行ってひれ伏 すとき、わたしは介添えをさせられます。」
 - ・エリシャは「安心して行きなさい」と許可した

預言者の使命

- なぜエリシャは「塩対応」したのか?
 - ナアマンがエリシャ個人を崇拝せず、主なる神と直接結びつくため
- ヨルダン川に七度身を浸させたのは?
 - 信じて自ら行動することの大切さを教えるため
 - あえてエリシャは何もしなかった
- ナアマンの告白こそエリシャの狙い
 - 「イスラエルのほか、この世界のどこにも神は おられないことが分かりました。」
- 異教や偶像への対応の仕方
 - ・形式上の宗教儀礼に従うことに問題はない

預言者の使命

- なぜエリシャは「塩対応」したのか?
 - ナアマンがエリシャ個人を崇拝せず、主なる神と直接結びつくためエグンルルーと 東京 ウェンシャルナーの 異邦人にも

伝える

- ヨルダン川に七度身を浸させたの
 - 信じて自ら行動することの大切さを
 - あえてエリシャは何もしなかった
- ナアマンの告白こそエリシャの狙い
 - 「イスラエルのほか、この世界のどこにも神は おられないことが分かりました。」
- 異教や偶像への対応の仕方
 - ・形式上の宗教儀礼に従うことに問題はない